勲　章

文化の日が近づくと思い出す。私が初めて大分駅に降りたのは昭和二十四年十月末、半世紀も前。旅に疲れ切ったわが家族の前を、勲章胸いっぱいの軍服姿の老人が行きつ戻りつしていた。

文化の日行事の仮装者かと思ったが、大まじめに威厳を作っている姿ですぐ分かった。軍国主義に毒された痛ましい犠牲者なのだ。ひと呼んで「アシハラ将軍」と言っているのは後から知った。

私はアシハラ将軍を笑えない。ひとは根源的に勲章を欲求する存在だから。

人間は欲求の束みたいなもの。その欲求を整理してふつう五段階に分けている。第一は食欲性欲のような動物的欲求、第二、第三と人間的欲求は高次となり、第四段階で社会的承認称賛を求めて必死の努力するに至る。

勲章希求はその頂点。大江健三郎氏は文化勲章は辞退したがノーベル賞はちゃんともらう。かりに人間がこの欲求段階で終わっていたなら、人類はとっくに消滅して

いる。よくしたものだ。神は第五段階の最高次の欲求を与えておられた。本当の自分自身に成りゆくための自己実現の欲求である。神（仏）に真実嘉される自分をめざすのである。

ドイツの思想家ニーチェ言う。「彼らは胸いっぱいメダルを着けて仮装している。最も愚鈍な者、最も狡猾な者、また権力によって暴利をむさぼっている者、それらの者のために作られたメダルを。彼らは決して第一人者ではない。だのに第一人者という符号になっていなければならない」。

（一九九四年十月三十一日）